

論壇

設問形式で自主的学習

コロナウイルスへの対応で大学も大変な状況だ。私の講義でも200人前後の学生が聴講し、部屋が狭くて立ち見が出ることもあるので、感染のリスクを考えたら、開講することは難しい状況だ。そこで大学では、当面の間、eラーニングを行うことを検討している。パソコンなどを通じて、学生に自宅で学習してもらうことになる。

現在のウイルス感染の状況をみると、eラーニングを活用するしかない。そう考えて、数日前から、そのための資料を作成し始めた。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

eラーニングの活用

カメラに向かって講義してその動画を学生にパソコンで見ってもらうことも考えたが、それでは教室の授業を小さな画面で見ただけで、実際の対面の授業よりも劣ったものとなってしまふ。そもそも1時間以上、パソコンの画面で動画の講義を見続けることは厳しい。そこでeラーニングならではの質の高い講義をするには何がよいのか考えた。

私の講義の一つはグローバル経済入門というものだ。今の世界経済の現状について説明するものだ。中国の成長とそのひずみ、欧州統合の実績と課題、トランプ政権によって米国経済がどう変化してきたのかなど、現在のグローバル経済の実態について学生に学んでもらう。もちろん、今年はコロナウイルスによって世界経済がどう変わって行くのかということも扱う予定だ。

これまでは、教室の対面授業で学生にこうした内容について語りかけてきた。教壇の上の教師の動きは、

かけて教材を作成し始めているが、その中で特に力を入れているのが問題集である。グローバル経済について学生に知ってほしいことを、いろいろな形で設問形式で聞いていく。学生はその問題を解く形で学んでいくが、詳しい解答や解説も用意する予定なので、学生としても自主的な学習ができるはずだ。

対面授業と組み合わせ

まだ教材を作成している途中ではあるが、この教材が非常に有効であると確信している。ウイルス騒ぎがなければこうした教材を時間をかけて作成しようなどと考えなかっただろう。大きな発見である。もちろん、学生と対面して行う授業は重要である。こうしたeラーニングの教材と対面授業を組み合わせることで、もつと成果が出ることを期待できる。

これを機会に、eラーニングの活用について議論が必要だ。大学のあり方も変わってくるだろう。特定の大学の授業だけでなく、いろいろな大学の教員の授業を受けられる。地方の若者も、高い生活費を出して東京に来なくても、地元で生活しながら首都圏や関西の授業を受けられる。

けがの功名、あるいは不幸中の幸いと言ふのか、今回のウイルス問題での対応の経験を通して、eラーニングの可能性が広がってきた。それによって大学だけでなく、いろいろな教育機関のあるべき姿にも大きな改良点が見いだせるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。